

研究テーマ

「生徒が自ら考え、判断したり表現したりする  
行動を引き出す授業づくり」

1 研究の目的と方法

学校研究テーマ「一人一人が主体的に活動する授業づくり」

主体性

意思をしめすこと  
好きなものを選ぶこと  
自分の意見や考えを伝えること

実態

受動的、経験不足、コミュニケーションが一方向的、身体の動きの課題

将来

周囲に自分の思いや考えを伝え、自分で判断したり行動したりする

自立活動の視点

「身体の動き」「人間関係の形成」  
「コミュニケーション」

【学部研究仮説】

「自立活動の6区分による生徒個々の実態把握や課題設定をすれば、集団の実態に合った教材・教具、環境の工夫によって、生徒は自ら思考・判断・表現することが増えるだろう」

2 研究の成果と課題

【成果】

- ・自立活動の6区分の実態把握表の作成から生徒個々の実態と優先すべき課題が把握できた  
⇒個々の実態をふまえ、集団での学習活動の選定と各生徒に応じた支援を工夫することができた
- ・類型Vの自立活動で、プールの学習評価表を作成  
⇒教師間で生徒の実態を共有し、授業の目標にそって話し合いを積み重ねることができた
- ・自立活動の指導内容と関連したチェックリストを作成  
⇒生徒個々の変容と発達段階を捉え、段階的な支援を工夫できた

【課題】

- 個々の自立活動の指導目標と各教科等との関連を図る
  - ・自立活動の指導目標を達成するための効果的な学習集団（個別、少人数、集団）を工夫する
  - ・個々の自立活動の課題を集団の自立活動の題材設定や指導目標につなげる
  - ・教科の指導目標を達成するために、自立活動の課題を配慮して指導する

## 2 研究の実際（類型ⅠⅡ）

## 総合的な学習の時間をとおして

### （1）対象生徒の実態等 と グループの研究仮説

#### 【実態】

- ・悩みやすく自分の事を過小評価する
- ・話題がずれたり、説明が回りくどくなる
- ・こだわりがあり、他人の意見をなかなか受け入れられない

#### 【主体的な姿】

- ・適切な自己理解をする
- ・相手に伝わりやすい表現や言葉遣い、行動をする

#### 【手だて】

- ① チェックシートとアンケートの活用
- ② ワークシートの活用
- ③ グループ討議や意見交換の場の設定
- ④ 体験後の十分な振り返り

【研究仮説】 自己チェックや他者の考えにふれる機会をとおして自分の良さに気づき、自己理解が進めば、自らの課題に対して主体的に思考判断したり行動したりするだろう

【検証方法】 ・チェックシートとアンケートから自己理解の変容を分析する  
・生徒がまとめたワークシートの意見を分析する  
・生徒の変容を学校生活全体をとおして観察する

### （2）実践経過

#### 自己理解の流れ

#### 自己評価チェックシート

ねらい：自立に向けた生徒の意識や課題を把握

生徒：自分のできること、できないことが分かった

#### ①データの活用

#### 進路アンケート

ねらい：働くことへの興味・関心を把握

生徒：働く理由について考えた

#### ②自己分析

#### ワークシート

ねらい：作業をとおして思考を深める

生徒：働くことについて考えを深めた

#### ③他者からのフィードバック

#### グループ討議・意見交換

ねらい：小グループで意見交換

生徒：友達の意見から学ぶことができた

#### 自己理解

#### ④体験

- ・ジョブカフェ体験
- ・校外学習
- ・わくワーク体験

#### 十分な振り返り

ねらい：学んだことを生活に生かす



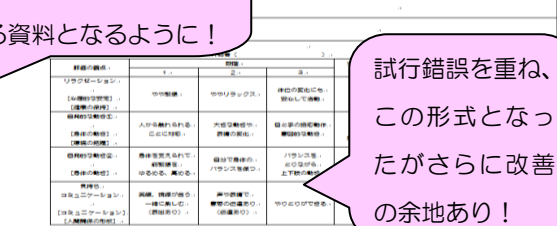

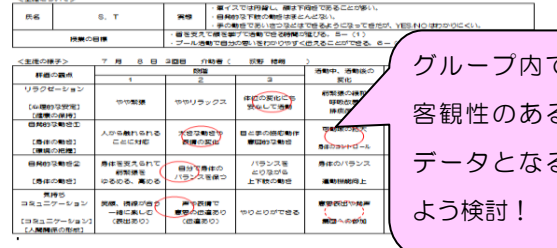

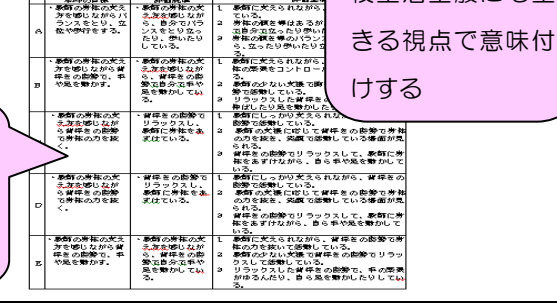
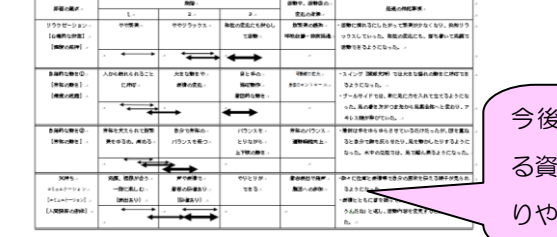
生徒：挨拶や言葉遣いに生かす

#### 自己理解の深化

### （3）成果と課題

- 【成果】 ○進路について考えることで自分の良さに気づき、生活態度を振り返ることができた  
○チェックシートやアンケートをすることで自分の課題を知ることができた  
○友達の考えを聞くことや教師とのやりとりすることをとおして自己理解が深まった

- 【課題】 ○話し合いをとおして自己理解を深めていく活動を増やす  
○生徒の課題や目標を担当者間で十分に共通理解する

	内容	資料	実践のポイント
STEP 1 (授業前)	<p>・集団での自立活動(プール)のねらいに生かせる内容を抜粋 (参考:長崎県自立活動学習内容要素表)</p>	 	<p>・担当する生徒の実態に応じたプールのねらいを選定し、具体的な目標設定を行う。</p>
STEP 2 (授業前)	<p>・グループ内生徒の自立活動の具体的な内容指導表作成 ・グループに合わせたプール学習評価表の作成</p>		<p>・自立活動の指導目標とプールの指導目標の整合性を図る。 ・具体的な支援をイメージする。</p>
STEP 3 (授業中)	<p>・プール活動の実施                      集団の活動で大切にすること、個々の指導目標をおさえて授業実践</p>		<p>・生徒の活動を観察し、良い「表現」はフィードバックする。</p>
STEP 4 (授業後)	<p>・プール活動の授業ごとに評価表の記入 ・グループ内での共通理解、客観的な意見交換</p>		<p>・活動内容、支援方法、次の課題の妥当性を検討する。</p>
STEP 5 (授業後)	<p>・活動前後の姿勢写真、活動中の「表現」についてVTRによる比較、検証</p>		<p>・目標に対する「表現」を分析する。</p>
STEP 6 (授業後)	<p>・生徒個々の段階的評価基準の設定                      評価基準(規準ではない!)のおかげで、より具体的な支援内容が分かり、評価もしやすくなったと実感</p>		<p>・目標が達成できた要因、できなかった要因、次の課題が明らかになり、教師の支援をより具体化する。</p>
STEP 7 (単元後)	<p>・今後の指導に向けたまとめ ・次の活動に向けた準備</p>		<p>・データをまとめ、今後の指導に生かす。</p>

複数の教師で話し合い、記入することが大切!客観性のある資料となるように!

試行錯誤を重ね、この形式となったがさらに改善の余地あり!

グループ内で客観性のあるデータとなるよう検討!

生徒の「表現」を学校生活全般にも生きる視点で意味付けする

今後の指導の参考になる資料となるよう、わかりやすくまとめる!

